東国分爽風学園
第１４回　義務教育学校の設置に関する検討委員会

別冊資料
～意識調査のまとめ～

１　児童生徒への教育効果・・・・・・・Ｐ１～Ｐ７

２　保護者の意識・・・・・・・・・・・Ｐ８～Ｐ１４

３　教職員への効果・・・・・・・・・・Ｐ１５～Ｐ２１

４　今後の校舎の在り方について・・・・Ｐ２２～Ｐ２７

意識調査のまとめについて

「東国分中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画（以下、基本計画）」にある「４　期待される教育効果」の「児童生徒への効果」および「教職員への効果」について、令和４年度に取り組んだ内容によって、どのような効果が見られたのかを検証するため、昨年度に引き続き（令和３年４月と令和４年２月に実施）、令和５年１月に、児童生徒、保護者、教職員を対象に意識調査を実施しました。

基本計画では、令和３年度から令和５年度の３年間を研究期間としていることから、毎年度意識調査を実施し、取り組みによる教育効果の変化を見ていきます。

合わせて、昨年度の意識調査において、「校舎」に関する意見が多数あったことから、今年度から「今後の校舎の在り方について」の質問を新たに加えました。

意識調査のまとめの構成

児童生徒、保護者、教職員の各質問項目において、過去に実施した意識調査と比較しました。

また、比較にあたっては、わかりやすくなるように、比較基準を設定しています。

＜意識調査の回答数の推移＞

	東国分中学校			曽谷小学校※			稲越小学校※		
	Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	Ｒ５年 １月	Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	Ｒ５年 １月	Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	Ｒ５年 １月
児童生徒	311 人	219 人	180 人	257 人	247 人	223 人	138 人	125 人	128 人
保護者	187 人	80 人	85 人	241 人	225 人	181 人	112 人	111 人	111 人
教職員	21 人	19 人	14 人	25 人	16 人	15 人	14 人	15 人	14 人

※小学校は３年生から６年生が調査対象

＜令和４年の２月との比較基準＞

１０%～それ以上の上昇	◎
１～９%の上昇	○
変化なし	―
１～９%の下降	△
１０%～それ以上の下降	▲

1　児童生徒への教育効果

「東国分中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画」にある「4　期待される教育効果　＜児童生徒への効果＞」に基づき、「独自の教育課程の編成による効果」、「中一ギャップの緩和」、「教科担任制の導入の効果」、「自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成」、「問題行動の防止」の５つについて意識調査を行いました。

（１）独自の教育課程の編成

基本計画では「小学校と中学校の学びと育ちを、義務教育９年間で捉え直すことにより、子どもの精神的、身体的な発達に即した独自の教育課程の編成が可能となり、子どもの個性や能力を最大限に引き出すことができます」としています。

令和４年度から、新たな教科「ふるさと探究科」がスタートしました。地域をよく知る方々に直接話を伺うなど、地域にある多くの教育的素材を生かし、地域に根差した授業を実施しました。

「新たな教科や９年間を見通した教育課程」がもたらす教育効果を検証するため、以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標			R３年 ４月	R４年 ２月	R５年 １月	比較
1	「授業に積極的に参加している」と回答した児童生徒の割合	中学校	８６％	８２％	８７％	○
		小学校	８４％	８５％	８４％	△
2	「授業では、自分の意見や考えを、学級やグループに伝えられている」と回答した児童生徒の割合	中学校	７５％	７３％	８０％	○
		小学校	７６％	７３％	７９％	○
3	「話し合いでは、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した児童生徒の割合	中学校	８４％	８６％	８９％	○
		小学校	７７％	７５％	８５％	◎
4	「学習したことを、次の学習内容や他の学習に活かすことができる」と回答した児童生徒の割合	中学校	８２％	８６％	８６％	―
		小学校	８８％	８５％	９０％	○

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて、全体的に「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した割合が上昇する傾向が見られました。

令和５年度においても、令和４年度に引き続き、新たな教科「ふるさと探究科」の授業等による、子どもたちの意識の変化について、調査していきます。

（２）中一ギャップの緩和（小学３年生から６年生及び中学１年生に実施）

基本計画では「学年段階の区分を発達段階に即して柔軟に設定することができるようになるため、子どもの学習や学校生活に否定的な影響を与える「中一ギャップ」の緩和が図られます」としています。

令和４年度は、３校合同で実施した「ブルーリボン運動」、小学６年生を対象とした「中学校部活動見学及び体験」、「乗り入れ授業」等を行いました。

中一ギャップの緩和を検証するために、以下の調査を行いました。

また、今年度は、東国分爽風学園がスタートした際に小学６年生だった「中学１年生」に対しても中一ギャップに関する意識の変化について調査を行いました。

①　成果指標

成果指標			R３年 ４月	R４年 ２月	**R５年 １月**	比較
1	「中学校への進学に不安がない」と回答した児童の割合	３・４年	８０％	７７％	**７４％**	△
		５・６年	７６％	７２％	**６９％**	△
	「中学校生活に悩みはない」と回答した生徒の割合	中学１年			**８８％**	
2	「中学校の学習について不安がない」と回答した児童の割合	３・４年	７６％	７２％	**６０％**	▲
		５・６年	６６％	６３％	**５９％**	△
	「中学校の勉強に悩みはない」と回答した生徒の割合	中学１年			**８４％**	
3	「中学校での友人関係について不安がない」と回答した児童の割合	３・４年	８４％	８４％	**８２％**	△
		５・６年	７６％	７７％	**７５％**	△
	「中学校の友人関係に悩みはない」と回答した生徒の割合。	中学１年			**８９％**	

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて、若干の下降傾向となり、小学３・４年生の「中学校の学習について不安がない」と回答した割合が１２％下がりました。

また、中学１年生は、全ての項目において小学生の割合を上回る結果となりました。

令和４年度は、小学生と中学生の直接的な交流ができたのは、小学６年生のみでした。

令和５年度においても、小学生と中学生との交流活動による、中一ギャップに対する意識の変化を確認するために、引き続き調査をしていきます。

（３）教科担任制の導入

基本計画では「小学校段階での教科担任制の実施が継続的に可能となり、教科指導の専門性に根ざした質の高い授業を行うことによって、学力や学習意欲の向上が図れます」としています。

令和４年度は、令和３年度に引き続き、中学校の数学科の教員が、小学６年生の算数科の乗り入れ授業を行いました。

学習意欲等の変化を検証するために、以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標			R３年 ４月	R４年 ２月	R5年 1月	比較
1	「学習することは好きだ」と回答する児童生徒の割合	小学生	７５％	７３％	６８％	△
		中学生	５７％	４５％	４３％	△
2	「学習の内容がよくわかる」と回答する児童生徒の割合	小学生	８９％	９１％	９０％	△
		中学生	８２％	７５％	８８％	◎
3	「学習の内容がわかると、やる気が出る」と回答する児童生徒の割合	小学生	９１％	９０％	８８％	△
		中学生	８７％	８４％	８７％	○
4	「先生は、できているところや改善できそうなところがどこかを教えてくれる」と回答する児童生徒の割合	小学生	９０％	９２％	９５％	○
		中学生	８１％	８７％	９６％	○

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて、大きな変化は見られませんでした。

小学生では「学習することが好きだ」、「学習の内容がよくわかる」、「学習の内容がよくわかると、やる気が出る」の割合が若干下がりました。

中学生では、「学習の内容がよくわかる」の質問で「思う」、「どちらかといえば思う」の割合が１３％上昇しました。

令和５年度においても、乗り入れ授業等の取り組みによる、児童生徒の学習意欲等に関する意識の変化を調査していきます。

（４）自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成

基本計画では「幅広い年齢による交流活動を多く実施することで、自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成が図れます。」としています。

令和４年度は、小中によるいじめをなくすための「ブルーリボン運動」、２校の小小連携によるオンラインを活用した「挨拶運動」等の交流活動を行いました。

自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成に繋がっているかを検証するために、以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標			Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**	比較
1	「自分には良いところがある」と回答した児童生徒の割合	小学生	８４％	６２％	**７８％**	◎
		中学生	７１％	７２％	**７９％**	○
2	「先生は、良いところを認めてくれる」と回答した児童生徒の割合	小学生	９４％	９１％	**９３％**	○
		中学生	８６％	６２％	**９６％**	◎
3	「友だちや別の学年の子が困っていたら、助けてあげたい」と回答した児童生徒の割合	小学生	９１％	９６％	**９９％**	○
		中学生	９２％	９８％	**９８％**	―
4	「友だちと話しているとき、相手の気持ちになって聞いたり、話したりしている」と回答した児童生徒の割合	小学生	７７％	９１％	**９０％**	△
		中学生	８５％	４３％	**９６％**	◎

②　結果よび令和５年度に向けて

昨年の２月と比べ、全体的に上昇傾向が見られました。

中学生では、「先生は、良いところを認めてくれる」の質問で、「思う」、「どちらかといえば思う」と答えた割合が３４％上がりました。また、「友だちと話しているとき、相手の気持ちになって聞いたり、話したりしている」の質問で、「思う」、「どちらかといえば思う」の割合は５３％上がりました。

令和５年度においても、直接的な交流活動による、自己肯定感の高まりや、思いやりの心の育成に関する児童生徒の意識の変化について確認するため、調査していきます。

（５）問題行動の防止

基本計画では「９年間を通して、低学年からの人間関係づくりを支援することで、問題行動の防止にもつながります。」としています。

令和４年度は、ブルーリボン運動、挨拶運動等の交流活動を行いました。

小中の教職員のサポートや小中または小小の児童生徒の交流による、問題行動の防止の効果を検証するために、以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標			R３年４月	R４年２月	R５年１月	比較
1	「嫌なことがあったとき、友だちや物にあたってしまうことがある」と回答した児童生徒の割合	小学生	７７％	７３％	７２％	△
		中学生	７３％	８２％	８０％	△
2	「友だちが誰かに迷惑をかけるようなことをしていたら注意できる」と回答した児童生徒の割合	小学生	８３％	８３％	８４％	○
		中学生	７７％	８１％	９０％	○
3	「気軽に相談できる友だちや大人がいる」と回答した児童生徒の割合	小学生	８８％	９２％	９２％	―
		中学生	８６％	９３％	９３％	―
4	「アドバイスや注意をしてくれる友だちがいる」と回答した児童生徒の割合	小学生	８４％	９３％	９４％	○
		中学生	８６％	９４％	９６％	○

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて、大きな変化は見られませんでした。

令和５年度においても、小学生同士や小中学生の交流活動による、友だちを大切にする気持ちや問題行動の防止に対する気持ちの変化を確認するため、調査していきます。

＜まとめ＞

「（１）　独自の教育課程の編成による効果」、「（３）　教科担任制の導入の効果」、「（４）　自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成」の３項目については、昨年の２月と比べて、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答する割合が上昇しました。特に、中学生の　「（４）　自己肯定感の高まりや思いやりの心の育成」の項目で、昨年の２月と比べて約２割から３割上昇しました。

「（５）　問題行動の防止」の項目については、大きな変化は見られませんでした。

「（２）　中一ギャップの緩和」の項目では、すべての質問において「不安がない」と回答した児童の割合が下降しました。

令和５年度は、小中学校間の直接的な交流活動を実施していきたいと考えており、これらの交流により、児童生徒の意識がどのように変化していくか、注視していきたいと考えております。

2　保護者の意識

保護者の小中一貫教育の子どもへの効果等に対する期待や、普段思っている意見を確認するため、保護者に対する意識調査を実施しました。(回答数：小学校 292、中学校 85)

（1）小中一貫教育の子どもへの効果について

①　成果指標

成果指標	中学校			小学校		
	R３年 ４月	R４年 ２月	**R５年 １月**	R３年 ４月	R４年 ２月	**R５年 １月**
小中一貫教育が子どもたちの成長に効果があると思う割合	８０％	８２％	**８０％**	８８％	８４％	**９２％**

効果があると思う内容		中学校				小学校			
		R３年 ４月	R４年 ２月	**R５年 １月**	比較	R３年 ４月	R４年 ２月	**R５年 １月**	比較
1	中一ギャップの緩和	７１％	６２％	**６５％**	○	７２％	６５％	**４３％**	▲
2	自己肯定感や思いやりの心の育成	６４％	３８％	**３８％**	―	５３％	２０％	**２４％**	○
3	問題行動の防止	２７％	２９％	**１８％**	▲	２１％	２４％	**９％**	▲
4	学力の向上	５５％	４２％	**３４％**	△	５１％	４７％	**２２％**	▲
5	学習意欲の向上	３７％	６２％	**２８％**	▲	３５％	４５％	**１２％**	▲
6	自主性の向上	３５％	２６％	**２８％**	○	３２％	２８％	**１３％**	▲
7	部活動等の活性化	５０％	１７％	**２６％**	○	４５％	２６％	**１８％**	△
8	教職員の子どもの発達の理解の深化	６０％	１１％	**６５％**	◎	５５％	３４％	**４３％**	○
9	教職員の負担の軽減	３４％	２３％	**１６％**	△	３８％	２７％	**１０％**	▲
１０	地域とのつながりの強化	４２％	２３％	**２１％**	△	３７％	５０％	**１５％**	▲

②　結果及び令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて、小中学校の保護者とも「８　教職員の子どもの発達の理解の深化」について教育効果を感じられたと回答する割合が増えました。一方で、特に小学校の保護者は、多くの項目で教育効果があると思うと回答した割合が下がりました。

令和５年度についても、小中一貫教育の取り組みの進捗により、この割合がどのように変化するか注視していきます。

＜保護者からの自由記述意見の概要＞

① 小中一貫教育は子どもたちの成長に効果があると思わない方からの意見

R３ 4月	R４ 2月	R５ 1月
●小中一貫型小学校・中学校への理解と効果の実感		
・まだ何も始まっていないため、何がいいのかわからない。 ・変化がないため必要性を感じない。 ・先行事例（塩浜学園）の良さが伝わっていない。 ・取り組みの情報が伝わってこない。 ・情報をもっと発信して欲しい。	・効果が見えていないため判断ができない。 ・あまり変化がわからない。 ・効果があるか実感できない。 ・今のところ目に見えていない。 ・今後の教科担任制の導入や部活動の活性化に期待している。	・具体的な効果を感じない。 ・直接子供たちには影響が届いていないように思う。 ・公立で一貫してのメリットがわからない。 ・小学校と中学校は別もの ・年齢が離れ過ぎている。
●中一ギャップについて		
・環境の変化に対応する力も必要。		・中一ギャップがより子供を成長させる。 ・中高一貫であれば効果がある。
●生徒指導について		
	・小学６年生の自覚（最高学年として）が薄くなるのではないか。 ・上の学年の目を気にせず、のびのびと過ごせる環境が必要ではないか。 ・少人数で目の届くところで指導して欲しい。	・他の学校も中学と小学校で別れているし、知らなくていいことも小学生にもわかってしまうのはよくないと思う。
●３校以外の学校との連携について		
・３校以外の学校への転入学はできるのか。 ・他の中学校への進学や、他校から東国分中学校の進学はどうなるのか。	・もっと３校以外の児童に対する配慮が必要。	・今、兄弟が中国分小に通っているが、学区が東国分中なので、通う予定だが、途中からとなると変わらないと思う。
●教職員の負担		
・教師の多忙化が心配。		・先生方が忙しくなり普通のことを普通にできなくなったとしたら本末転倒。
●校舎について		
	・小中一貫校なのに、校舎が同じではない。	
●その他		
・小中で活動する際の安全面が不安。 ・各学校の良さが薄れるのではないか（少人数での活動等）。 ・受験への意識が低くなる ・小中一貫教育で育った等の経験から、メリットを感じなかった。	・中学生が受験する際に影響があるのではないか。 ・東国分中学校へ進学しない中学生には意味がないのではないか。	・特色がある授業や行事があり、活動の縮小・廃止が残念。 ・学区によっては通学が遠くなる。 ・小さなコミュニティになる。 ・学区の問題が解決していない。

② その他、義務教育９年間を一貫して行う「小中一貫教育」についての意見

〇小中一貫教育への期待

R３ 4月	R４ 2月	R５ 1月
●学力の向上		
・生徒への指導が細かくなることで、学力の向上に期待している。 ・小から中への引継ぎをしっかり行い、小中９年間の目標(子どもの姿、学習・学力）を定め、そこへ向かって指導して欲しい。	・学力アップを目指した教育をして欲しい。 ・基礎をしっかり学習するクラスや高いレベルで学習するクラスなど、分けたらどうか。	・学力アップを強めてほしい。 ・中１で勉強につまづいたとき、小６に戻り、気軽に復習出来る環境があると良い。 ・とにかく、学力向上に繋がる教育をして欲しい。
●不登校への対応		
・自分の子どもが不登校だった。その頃からこのような取り組みがあれば良かった。	・自分の子どもが不登校だった。その頃からこのような取り組みがあれば良かった。	
●小中学生の交流及び連携		
・稲越のような縦割り教育で、心の発達を願いたい。 ・地域での関わりが減っている中、子ども同士の関わりも減っている。小中の交流によって、お互いに寄り添う気持ちを育てあってほしい。 ・コロナ禍だが、行事などの交流があるといい。 ・他の学校の子の刺激があると向上していくと思う。	・縦割りの異学年交流が進めば、学校生活を安定して楽しめるのではないか。 ・色々な人と交流することで、思いやりや優しい人になって欲しい。 ・学年学校を越えて心豊かに育って欲しい。	・もっと色々交流してほしい。 ・環境をもっと活かしていくべき。子供たち同士から学んでいくことが非常に多い。友達やお兄さんお姉さんの話ならすっと心に入ってきたり、カッコイイ！と思えたり、憧れだったり、そういう経験はとても大事。 ・中学入学時に小学校と中学校で連携が取れていると不安が解消されるかもしれない。情報のやりとりがあるといい。 ・参観や運動会等のコロナ対策に各校で違うので（小中学で人数に差があるせい？）戸惑ってしまう。
●部活動や特色ある教育の実施		
	・部活動を充実させて欲しい。	・部活動の交流や先生交換などもっと盛んにやってほしい。 ・地域活性化と子供たちの学校生活を充実させる為、学校に特徴を持たせて欲しい。変わった部活を増やすとか。 ・中学の部活動も増やして欲しい。今現在の部活数は近隣の中学に比べても少ない。 ・部活動などで学力以外の向上にも期待。

●校舎について		
		・問題もたくさんあるかとは思うが、ぜひ３校同じ校舎で過ごす形を実現させてほしい。
●その他		
・時代の流れを含め、ジェンダーレスに対応した制服の選択性など、慣例を大切にするばかりでない、工夫を凝らした進め方、子どもファーストで進めて欲しい。 ・子ども達が自分で選んだり、考えたり自主性を養えるような授業や生活があると良い。	・小学生にとっては大きな改革だと思う。東国分中学校へ行きたい！中学生になったら～がしたい！そんな思いをもって進学できるようにして欲しい。 ・新たな取り組みも前向きに検討して欲しい。 ・行事を一緒にやって欲しい。 ・多くの目が入ることで、より良くなるといい。 ・学年だよりにも「爽風学園交流」等の名称を入れて欲しい。	・私は幼児小中一貫校の出身。チャイムがない学校だったので自分で時間の管理を早い時期から習慣づけることができた。必須学科の他にも特に力を入れていたのが校外学習で、社会科見学や音楽鑑賞に機会がたくさんあった。職場体験もあったので、自分に合った仕事は何か、将来の選択肢が増えたと思う。そういった学校を作ってほしい。 ・子供だけではなく親も中学との連携がスムーズにいく取り組みがあってもいい。 ・稲越小学校で盛んにやっていたような、縦割りの活動が取り入れられると、子どもたちにとって良い。 ・運動会などのイベントはどうなるのか知りたい。 ・友達関係などに不安を抱えそのまま進学することを喜べない子もいると思う。見逃さず配慮してほしい。 ・良い影響がたくさんあると思う。子どもたちにとって実りある学校生活になると良いと心から願っている。 ・本当の意味での、先生の仕事の効率化を行い、生徒に接する時間が増やせるような体制を考えてほしい。 ・地域の活性化は、PTA との取り組みも考えてほしい。 ・市内の小中一貫校の成果をわかりやすく示してもらえたらありがたい。

〇小中一貫教育への不安

R３ 4月	R４ 2月	R５ 1月
●他の学校との連携や学区について		
・他の小学校から東国分中学校への進学ができるのか。 ・他の学校からの転入学はできるのか。 ・３校以外のブロックから転入してきた子へのケア、対応が心配。 ・国分小学校、中国分小との関わりはどうなるのか。 ・東国分中学校に通いたい場合は、曽谷小学校か稲越小学校へ通わなくてはならないのか。 ・第三中学校や第一中学校との関係はどうなるのか。 ・学区はどのようになるのか。	・３校以外の児童に対する配慮がたりない。 ・２校の小学校以外から東国分中学校に進学する子ども達への配慮をお願いしたい。 ・小中一貫教育を目指すなら、学区全部を視野に入れ欲しい。	・中学に上がるタイミングで入ってくる子達や他校に進学する子達の気持ちにも寄り添って欲しい。 ・学区的に曽谷小学校から三中に行く子ども達もいるので、その時の情報共有はどうなるのか。 ・中国分小学校から東国分中学校に行く子も多いのに、爽風学園から外れているのは、中学に入ってからギャップはないのか心配。地域でわけず、現実にどこの小学校から多く来るかを検討して欲しい。
●校舎について		
・小中一貫教育をしているのであれば早急に校舎を統一した方がいい。 ・同じ敷地内での方が良いのではないか。 ・一貫校になったので、校舎も一体の方がいい。 ・塩浜学園のようなものが望ましい。 ・校舎が一つの方が、教師も子ども戸惑うことなくできるのではないか。	・同じ校舎にすべき。別々の校舎では何も変わらない。 ・校舎をまとめて一つにした方が、小中一貫校と言えるのではないか。	・現在の状態では、小中一貫校とはいえず、期待出来ることが少ない。 ・具体的にいつからか、校舎を一つにまとめるなら、どこになるか気になる。
●小中一貫による弊害について		
・９年間同じメンバーだと、何かあったときに逃げ場がなくなる。 ・中一ギャップが緩和されても、高一ギャップが起きるのではないか。	・小中一貫教育を行うことで、従来できていたことができなくならないようにして欲しい。	・大人だけでなく子どもたちの意見を聞いて進めてほしい。 ・家が近い子同士の９年間なので何か問題が発生した時に困る。 ・良いことはいっぱいあるが、逆に中学レベルのいじめが、小学生に横行する可能性もある。 ・登校など問題が起きたとき、一貫校だと中学からの新しい友達ができないため、そのまま不登校になってしまう等のデメリットもあると思う。 ・小１と中３という相当な差が同じ場所で過ごす事で教員側の負担が心配。それで子供側が不安定にならない様になれば良い。

●教師の負担について		
・生徒にとってはいいことずくめだが､教職員の負担が増えて大変だと思う。 ・保護者への対応が大変な時代なので､できるだけ負担を減らせるような働きやすい環境づくりをして欲しい。		・一貫教育はとてもいいと思いますが、先生が子供達一人一人に寄り添えるようにもっと先生の人数を増やし、仕事を分担してもらいたい。 ・教師の負担が減り、指導をよりしっかりして欲しい。 ・一貫校になることで先生方の仕事の負担が本当に減るのか疑問に思う。 ・子どもの成長はもちろんだが、小中一貫になることで、先生方が少しでも休みやすく、働きやすくなるようになってほしい。 ・今のままでは　特に変わった感じもなくただ先生達の負担になってないかだけが心配。
●特別支援教室、学童保育クラブについて		
・支援クラス､通級指導教室が柔軟に利用できるといい｡設置の検討もお願いしたい。 ・今後､学童保育クラブはどのようになるのか、詳しく知りたい。	・３校の対応を統一して欲しい。 ・特別支援学級の設置は難しいかも知れないが、通級は小学校からできるといい。	
●その他		
・早く､小学生が中学校の部活動に参加できるようにして欲しい。 ・歩道やガードレールが無い道もあるため、整備が必要。 ・通学路が長くなるので､スクールバスを作って欲しい。 ・冬場や寒い時のジャージを､小学校でも採用して欲しい。 ・小中一貫教育を推進する前に､対応できる教師の育成が必要ではないか。 ・少人数の良さは生かして欲しい。	・早く完成形を示して欲しい。 ・いつまでに何をしていくのか、明確でない。 ・具体的にいつから一体なるのか。途中で校舎が変わる際の対応に悩む。 ・統一後の PTA 活動 (パトロール等) の予想がつかない｡統一される時期や場所がわかれば連携しやすくなる。	・小中一貫というと私立校のイメージがあり、市立校での小中一貫教育がどんなメリットがあるのかわからない。現在どのような目的で小中一教育を行っているのか知りたい。 ・未だによくわからないが、既に小中一貫教育がスタートしているのか。我が子は別の小学校から進学したこともあってか、特に一貫教育を受けている印象は持っていない。

＜まとめ＞

小中一貫教育に期待している方の意見
・学力向上に繋がる教育をしてほしい。
・勉強に躓いたときに気軽に復習できる環境を整えてほしい。
・交流活動を通して、学年・学校を越えて心豊かに育ってほしい。
・部活動の充実を期待している。

小中一貫教育は子どもたちの成長に効果があると思わない方の意見
・具体的な効果を感じない。
・公立で一貫してのメリットがわからない。
・学区によっては通学が遠くなる。
・教職員の負担が大きい。

小中一貫教育への不安に思っている方の意見
・現在の状態では期待できることが少ない。
・いじめ・不登校のリスクが高くなる。
・中国分小から進学する際の中一ギャップがないのか心配。

その他の意見
・今の時代の流れに沿って子どもファーストで進めてほしい。
・爽風学園にあこがれをもって進学できるようにしてほしい。
・子供たちにとって実りある学校生活にしてほしい。

小中一貫教育に期待する意見がある一方、児童生徒の直接的な交流があまり実施できていないため、その効果が感じられないという意見も多く、児童生徒が小中一貫教育のメリットを実感できる取り組みが求められています。児童生徒の直接的な交流を実施することによって、児童生徒自身が小中一貫教育のメリットを感じることが、保護者の小中一貫教育に対する教育効果の実感に繋がるものと考えています。

3　教職員への効果

「東国分中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画」にある「４　期待される教育効果　＜教職員への効果＞」に基づき、「授業の改善」、「児童生徒への理解の深まり」「協働体制の構築」「校務の効率化や質的な向上」の４つについて意識調査を行いました。

（１）授業の改善

基本計画では「９年間を見通した指導計画の作成や小学校段階からの教科担任制の導入により、互いの教育課程への理解が深まり、授業改善が図られます。」としています。

令和４年度は、３校合同研修会において、ふるさと探究科の「和菓子」を題材とした授業参観を実施しました。また、令和３年度に引き続き、きめ細かな指導の充実を図るために、中学校教員による乗入れ授業を実施しました。

これらのことに関連して、以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標		Ｒ３年４月	Ｒ４年２月	**Ｒ５年１月**	比較
1	「学級だけでなく、学年や他学年の先生方と連携して授業を行っている」と回答した割合	８８％	９０％	**８６％**	△
2	「他の教科や別の学年のつながりを意識して授業を行っている」と回答した割合	９５％	９０％	**８８％**	△
3	「授業によって子ども達の学力が向上している」と回答した割合		９４％	**９１％**	△

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて大きな変化は見られなかったものの、回答の割合が若干下がりました。

令和５年度についても、教科担任制や乗入れ授業、ふるさと探究科等の実施による、教職員の授業改善に対する意識の変化を確認するため、調査を実施していきます。

（２）児童生徒への理解の深まり

基本計画では「９年間を見通した指導計画の作成や小学校段階からの教科担任制の導入により、～略～また、子どもの発達に対する認識が深まり、子ども一人一人の理解の深化につながります。」としています。

令和４年度は、３校の教職員による「合同研修会」を２回実施し、それぞれの児童生徒についての情報共有や、課題となっていることについての解決策を話し合いましました。

このことに関連して以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標		Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**	比較
1	「子ども達一人一人の特性に応じた生徒指導をしている」と回答した割合	９６％	９２％	**９７％**	○
2	「子ども達を褒めることが多い」と回答した割合	９６％	９０％	**９３％**	○
3	「子ども達は、自己肯定感が高い」と回答した割合	５０％	５４％	**６０％**	○
4	「子ども達は､問題行動や不登校が少ない」と回答した割合	５２％	５４％	**５１％**	△

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて、３つの項目で上昇傾向が見られました。

一方で、令和３年度と同様に、教職員と児童生徒の自己肯定感の高まりや問題行動の防止に対する認識に差が見られます。

令和５年度についても、合同職員研修会等、児童生徒の情報共有や子ども一人一人の理解が深まるような取り組みを検討し、児童生徒理解の深化に対する教職員の意識の変化を確認するため、調査していきます。

（３）協働体制の構築

基本計画では「小・中学校合同の行事開催や交流活動、授業におけるティーム・ティーチングや乗り入れ授業などの実施によって、小中学校の教員が互いに協力し、責任を共有して、児童生徒に必要な資質・能力の育成を図る協働体制の構築を図られます。」としています。

令和４年度は、「ふるさと探究科部会」を含めた７つの専門部会を立ち上げ、３校合同職員研修会を年２回実施しました。専門部会では、各学校で共通して取り組めることなど、学習内容や学習計画を話し合うことで連携を進めました。

このことに関連して以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標		Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**	比較
1	「自分の学年だけでなく、他の学年とも連携して授業や生徒指導を行っている」と回答した割合	８６％	８２％	**７０％**	▲
2	「トラブルがあった場合は、学年だけでなく、他学年の先生方や管理職と連携して対応している」と回答した割合	９１％	９２％	**９５％**	○
3	「授業は、一人で行うよりもティーム・ティーチングなど、複数で行う方が効果がある」と回答した割合	９１％	９４％	**９３％**	△

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月に比べて「自分の学年だけでなく、他の学年とも連携して授業や生徒指導を行っている」の割合が１２％下がりました。

令和５年度は、教職員の連携をさらに深めるための合同研修会の開催を検討していきます。今後も、これらの取り組みにより、小中の協働体制に対する教職員の意識の変化を確認するため、引き続き調査をしていきます。

（４）校務の効率化や質的な向上

基本計画では「責任体制を明確化するなど、小中一貫教育にふさわしい運営体制を整えることにより、校務の効率化や質的な向上につなげます。また、学校事務の共同実施等が促進されます。」としています。

令和４年度は、学級担任をしている稲越小学校の教務主任が、小中一貫教育に関わる会議等に参加する際に、その学級を見るための教職員を配置しました。また、東国分中学校においても、小学校で乗り入れ授業等を実施する際に、その教師が担当している授業等を代わりに担当する教職員を配置しました。

校務の効率化等に関連して以下の調査を行いました。

①　成果指標

成果指標		Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**	比較
1	「担当している校務（校務分掌等）は、複数の教職員で協力して行っている」と回答した割合	８９％	８０％	**７９％**	△
2	「担当している校務は、効率的にできている」と回答した割合	７１％	７０％	**６７％**	△
3	「担当している校務は、負担になっていない」と回答した割合	６７％	７０％	**６３％**	△

②　結果および令和５年度に向けて

昨年の２月と比べて大きな変化はありませんが、若干下降傾向が見られました。

令和５年度は、校務の効率化や質的な向上につながる取り組みを検討し、教職員の意識の変化を確認するため、引き続き調査を実施していきます。

（５）小中一貫教育の効果について

教職員の小中一貫教育の子どもへの効果等に対する期待や、どのような面で効果があると思っているのかを確認するために、教職員に対する意識調査を実施しました。

（回答数：中学校 14、小学校 29）

①成果指標

成果指標	中学校			小学校		
	Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**	Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**
小中一貫教育の導入が、子ども達の成長に効果があると思う割合	８１％	７８％	**５７％**	８４％	９７％	**８３％**

効果があると思う内容		中学校				小学校			
		Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**	比較	Ｒ３年 ４月	Ｒ４年 ２月	**Ｒ５年 １月**	比較
学習意欲 学力	学習意欲の向上につながる	35%	36%	**38%**	○	34%	53%	**25%**	▲
	学力の向上につながる	29%	14%	**38%**	◎	25%	27%	**21%**	△
	家庭学習を含め、学習習慣の定着につながる	41%	21%	**38%**	◎	22%	3%	**13%**	◎
	学習活動の充実が図れる	59%	64%	**38%**	▲	63%	67%	**63%**	△
豊かな心	弱いものを労わる心や思いやりの心が育まれる	82%	36%	**38%**	○	38%	47%	**54%**	○
	自己肯定感（自尊感情）の向上につながる	47%	36%	**38%**	○	25%	13%	**21%**	○
	早い段階から自主性が生まれる	47%	50%	**25%**	▲	28%	43%	**33%**	▲
	問題行動の予防につながる	29%	21%	**25%**	○	31%	33%	**21%**	▲
	不登校の予防につながる	29%	21%	**13%**	△	28%	21%	**4%**	▲
	いじめの減少につながる	29%	7%	**13%**	○	22%	0%	**4%**	○
健やかな体	基本的な生活習慣や生活規律の定着が図られる	41%	19%	**63%**	◎	34%	37%	**38%**	○
	部活動の活性化に対する教職員の認識が深まる	53%	64%	**50%**	▲	59%	37%	**67%**	◎
教職員	子どもの発達に対する教員の認識が深まる	82%	86%	**88%**	○	63%	70%	**71%**	○
	教員の教科における指導力の向上につながる	53%	64%	**38%**	▲	50%	50%	**42%**	△
	教員の児童生徒理解の深化につながる	76%	50%	**38%**	▲	50%	50%	**46%**	△
	協力して指導に当たる意識の向上につながる	59%	29%	**13%**	▲	41%	43%	**54%**	○
	教員の仕事に対する満足度の高まりにつながる	29%	7%	**13%**	○	13%	3%	**21%**	◎
	保護者との協働関係の強化につながる	24%	0%	**13%**	◎	22%	0%	**21%**	◎
	地域との協働関係の強化につながる	41%	21%	**25%**	○	31%	27%	**21%**	△
	学校運営や校務分掌の効率化につながる	29%	0%	**25%**	◎	28%	0%	**25%**	◎
教育環境	中一ギャップの解消が図られる	65%	71%	**63%**	△	75%	33%	**63%**	◎
	児童生徒の活動の場が多くなる	41%	43%	**50%**	○	25%	20%	**38%**	◎
	教師と児童生徒の人間関係が深まる機会が増える	41%	0%	**38%**	◎	25%	0%	**67%**	◎
	地域の方も含めた広い人間関係が深まる機会が増える	53%	29%	**25%**	△	34%	31%	**54%**	◎
	協働性・社会性を身に付ける機会に恵まれる	41%	0%	**7%**	○	47%	0%	**3%**	○

② 結果と令和５年度にむけて

「小中一貫教育の導入は、子ども達の成長にとって効果があると思いますか」の質問に対し、昨年の２月と比べて、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した割合が下がりました。特に中学校では２１％下がりました。

また、効果があると思う内容について、大きく変動したものは、以下のとおりです。

割合が２０％以上上昇した項目

中学校

○大項目**「学習意欲・学力」**の「学力の向上につながる」
○大項目**「健やかな体」**の「基本的な生活習慣や生活規律の定着が図られる」
○大項目**「教職員」**の「学校運営や校務分掌の効率化につながる」
○大項目**「教育環境」**の「教師と児童生徒の人間関係が深まる機会が増える」

小学校

○大項目**「健やかな体」**の「部活動の活性化に対する教職員の認識が深まる」
○大項目**「教職員」**の「保護者との協働関係の強化につながる」
○大項目**「教育環境」**の「中一ギャップの解消」、「教師と児童生徒の人間関係が深まる機会が増える」、「地域の方も含めた広い人間関係が深まる機会が増える」

割合が２０％以上下降した項目

中学校

○大項目**「学習意欲・学力」**の「学習活動の充実が図れる」
○大項目**「教職員」**の「教員の教科における指導力の向上につながる」
○大項目**「豊かな心」**の「早い段階から自主性が生まれる」

小学校

○大項目**「学習意欲・学力」**の「学習意欲の向上につながる」
○大項目**「豊かな心」**の「早い段階から自主性が生まれる」、「問題行動の防止につながる」「不登校の防止」

児童生徒や保護者と比較し、回答数が限定され、意識調査の結果が年によって大きく変動しやすい傾向は見られますが、令和５年度についても、小中一貫教育の効果に対する教職員の意識の変化を確認していくため、調査をしていきます。

＜教職員からの自由記述意見の内容＞

①小中一貫教育は子どもたちの成長に効果があると思わない方からの意見

●教職員の負担について
・人員、予算が見込めないまま進めても職員の負担が大きくなるだけだ。 ・クリエイトする気を起こすため業務のスクラップが先だ。 ・ふるさと探究科のような新しいことを始めなければいけないと、それだけ作り出す大変さがあると思う。教員側の負担感が増えていくと思う。
●教育効果について
・授業交流等、まだ本格的な交流を行っていないので、効果は感じられません。 ・導入をすることが子どものために、つながっていくのかが見えない。 ・一長一短あり、成長の効果が期待できる側面もできない側面もある。
●中一ギャップの解消について
・中一ギャップの解消には効果があると思えるが小学生と中学生では、発達段階に差が大きく、共に生活するメリットが大きいとは思えない。 ・中学校で心機一転頑張ろうというのが難しい。 ・中一ギャップはデメリットではないと考えているため。 ・人数も少ないので、新しい刺激が少なくなる分、柔軟さやしたたかさが育たない気がする。また､合わなかったら逃げ場がない。
●地域性について
・小中連携の実施の相性は地域によって偏りが大きすぎる。
●校舎について
・校舎が別々なので連携がしづらいからです。 ・物理的に離れていて小中連携が難しい

４　今後の校舎の在り方について

昨年度の意識調査で「校舎」についての意見が、教職員及び保護者から複数寄せられたことを受けて、今後、小中一貫教育を進めていくにあたり、どのような校舎の形態が良いか、意識調査を行いました。

（回答数：児童生徒 531、保護者 377、教職員 43）

オンライン集会や部活動見学など、３校での取り組みを進めてきましたが、これからも今と同じように、別々の校舎で進めて行くのが良いか、あるいは、３校が１つの校舎となって進めて行くのが良いか、当てはまるものを選んでください。

	小学校				中学校			
	小3・4	小5・6	教職員	保護者	中１	中2・3	教職員	保護者
今と同じように、別々の校舎で取り組みを進めて行くのが良い	55%	55%	31%	46%	56%	70%	50%	40%
３校が１つの校舎となって、取り組みを進めて行くのが良い	44%	44%	66%	50%	42%	27%	43%	55%
その他	1%	1%	3%	4%	2%	3%	7%	5%

＜主な意見＞

小学生	
今と同じように、別々の校舎で取り組みを進めて行くのが良い	**３校が１つの校舎となって、取り組みを進めて行くのが良い**
＜一体型校舎のデメリットについて＞ ・人数が多いと窮屈になる。 ・コロナウイルス感染症の影響がある。 ・人が多いとけんかや事故が増えそう。 ・思い入れがあった学校がなくなるのが嫌だ。 ・コミュニケーションがとれるか不安。 ・中学生と小学生では休み時間とか授業の時間が違うから、同じ校舎にしたら授業に集中できない。 **＜現状維持のメリットについて＞** ・今の学校の方が生活しやすいし安心できる。 ・それぞれの学校の良さがある。 ・各学校の伝統をちゃんと守りたい。 ・挨拶運動等オンラインで交流ができている。 ・３校が離れていても、繋がることができる。 ・中学校での楽しみが増える。	**＜一体型校舎のメリットについて＞** ・みんなで一緒に過ごした方が仲も深まるし協力できる。 ・みんなで一緒に意見を言い合える。 ・みんなで一緒に部活や勉強をしたい。 ・もっと友だちをつくりたい。 ・中学生と話してみたい。 ・建物が１つになると話しやすくなる。 ・東国分爽風学園でたくさんのこと学びたい。 ・同じ場所で学びたい。 ・自分では思いつかないことも聞ける。 ・人間関係を深められる。 ・社会に出た時に人との付き合い方を学べる。 ・年上の人たちが色々と教えてくれる。 ・上が下を教える。下が下を教える関係がいい。 ・各学校の良い所を共有できる。 ・３校だともっと学校がよくなる。

中学生	
今と同じように、別々の校舎で取り組みを進めて行くのが良い	**３校が１つの校舎となって、取り組みを進めて行くのが良い**
＜一体型校舎のデメリットについて＞ ・それぞれの学校の文化がなくなってしまう。 ・３校が集まれる土地が学校周辺にない。 ・家からの距離が遠くなってしまう。 ・コロナ感染が心配。 ・人数が多いとトラブルが増え、いじめに繋がることが起きるかもしれない。 ・学校や部活などが同じになると中学生が小学生のことをまとめるのは大変だ。 ・自分たちの母校がなくなるのは悲しい。 **＜現状維持のメリットについて＞** ・別々の学習、生活環境だからこそ、お互いの知らなかったことに理解を深められる。 ・学校のよいころを生かして進めた方がいい。 ・別々で取り組みを進めた方がやりやすい。 ・それぞれの学校の個性を残したほうがいい。 ・今の状態で快適に３校の協力ができている。 ・学校生活にメリハリがつくし、今までの形を崩されたくない。	**＜一体型校舎のメリットについて＞** ・３校で活動して交流を深めることでより良い学校生活を送れるようになる。 ・それぞれのいいところや色々な意見が出ると思うし、小学校と交流することはよい。 ・移動も少なく他学年と話す機会が増える。 ・小学生に中学校の先生が授業をわかりやすく教えることができる。 ・直接触れ合うことでより、交友関係も持てて、協力し合える。 ・みんなで協力して活動したい。 ・連携も簡単にとれるし、情報の伝達も早くなる。同じ校舎なら小中で関わりがうまれる。 ・仲間意識や集団意識は芽生え、学習への自信も出てくる。 **＜現状維持のデメリットについて＞** ・別々では、一緒に取り組んでいる実感がなく、爽風学園として名前をまとめられただけに感じる。

教職員	
今と同じように、別々の校舎で取り組みを進めて行くのが良い	**３校が１つの校舎となって、取り組みを進めて行くのが良い**
＜一体型校舎のデメリットについて＞ ・合併時の校舎の場所や子どもたちの様子を考えると分けていた方が良い。 ・新たに校舎を分けると多くの労力がかかり、児童の負担になりかねないと感じた。 ・校舎の統合は現実的でない。 ・現在の状態でも分掌等の負担が多く、3 校が同じ場所になることを考えると、教職員も増え分掌の把握等、今以上に負担が多くなる。 ・校舎が大きいと圧迫感を感じる。 ・校庭、体育館、図書室など小学生と中学生が同一のものでよいとは思えない。二重に準備することを考えると物理的に難しいのではないか。 ・生徒・児童の通学距離が遠くなる。 ・給食運営としては、小中両方の給食の書類を一人で作成するのは、負担が大きい。 ・今ある環境でできることをすることが優先。 **＜現状維持のメリットについて＞** ・現在の連携の方が効率的だと思う。 ・気持ちが入れ替わるタイミングがある。 ・多様性の維持。	**＜一体型校舎のメリットについて＞** ・一貫の良さを最大限に生かせる。 ・より充実した教育ができる。 ・３校の交流を負担なく活発に行うためには、同じ校舎の方がやりやすい。 ・様々な教育活動を連携して行える。 ・児童生徒数の減少に伴い、１つの校舎で運用するほうが効果も上がると思う。 ・義務教育学校として取り組めば、副産物として生まれる教育的な効果は計り知れない。 ・学校規模的に考えても、校務の分担が図れるのでいいと思う。税金の観点からも、維持管理が一校になるのはよい。 ・色々進めるうえで実際に一緒に過ごせることは大きいと思う。 **＜現状維持のデメリットについて＞** ・離れていると一体感が感じられない。 ・校舎が別々だと、子どもたちの中では爽風学園という認識は薄い。 ・校舎が離れていると具体的な活動をする際、距離や時間がかかり実際の連携が難しい。 ・移動時間がかかると交流することに負担を感じる。 ・別の校舎だと、一貫と言われても実感がない。

保護者	
今と同じように、別々の校舎で取り組みを進めて行くのが良い	**３校が１つの校舎となって、取り組みを進めて行くのが良い**
＜一体型校舎のデメリットについて＞ ・校庭が広いので今のままがいい。 ・学校の特色を生かし、連携を強めていける体制がよい。 ・校舎が一緒だと中学生になったという新たな気持ちが薄れる。 ・一緒にするメリットがよく分からない。 **＜通学の距離について＞** ・一つの校舎となると、登校の距離や時間が変わり、交通安全面が不安。 ・バスという意見も出ていたが道幅を見ても現実的ではないし、親として不安しかない。 ・低学年の子に、負担が大きい。	**＜一体型校舎のメリットについて＞** ・お迎えがしやすい。 ・先生が増え目の届く範囲も広がり、メリットの方が多いと思う。 ・交流が増え行事の活性化が見込める。 ・教員が、連携して児童生徒の指導を行うことで、子どもの発達の理解が深まり、生徒指導の面で生かされると思う ・児童生徒と真摯に向き合い、対応が出来る環境を整えれば、教育の柔軟性が期待できる。 ・部活動や教育活動を連携して進めやすい。 ・低学年に中学生を身近に感じられる。 ・学力と学習意欲の向上が図られると思う。 ・１つの校舎でスタートするのが学園らしい。

＜現状維持のメリットについて＞
・十分きめ細かな指導をしている。
・小規模ならではの教育がいいと思っている。
・３校それぞれの良さもあるので、一緒に出来る事は爽風学園として行うのが良い。
・各学校の行事が無くなるのは良く思わない。
・中学校に進学する際、新たな出会いがあり新境地の実感が沸く。

＜人数が増えることへのデメリットについて＞
・学校外の付き合いを制限するのが難しく、いじめ問題が多発する。
・大規模すぎるとまとまらない。
・密な友達関係が作れないような気がする。
・教師の目が届かない場所が出てくる。
・校庭、体育館の利用がしにくくなる。

＜年齢差に関するデメリットについて＞
・中学生が悪い見本になり子に矛先が向かないか心配。
・何かあった時の子供の逃げ場がなくなる。
・小学１年生と中学３年生が同じ校舎で学ぶことが、効率の良いやり方とは思わない。
・低学年のお世話は高学年で充分に出来る。
・中学生がいることで、６年生が強い責任感や自主性を失ってしまうように思う。

＜場所について＞
・敷地がどこになるかの問題。
・広大な土地の確保が難しい事や体育館や校庭が狭くるのは良くない。

＜費用について＞
・工事期間や工事費用が掛かるので、いまの校舎を利用すればいいと思う。
・多額の税金で建て直す必要があるのか。

＜学習について＞
・重要なのは学習方法や学習内容だと思う。
・オンラインの活用方法を再考する事でより効果が生まれる。

＜中学に進学することの重要性について＞
・中学に上がった時に気持ちの切り替えができると思う。

＜６年生の役割について＞
・リーダーシップを発揮する機会が減ってしまう。

＜他校からの進学や学区について＞
・全員が同じ中学校に進学する訳では無い。
・校舎を一つにするまでの期間や、その時期に

＜現状維持のデメリットについて＞
・校舎が別々だと、小中一貫教育の意味がない。
・連携をとって活動している実感がない。
・一貫した教育・指導が円滑に進められているのか分かりにくい。
・子供や先生の負担が大きい。
・年に数回交流があるかないか程度であり、今までと何ら変わりがない。

＜中一ギャップの軽減について＞
・日常的に中学生の活動などが見えると子供の将来のイメージが付きやすいと思う。
・縦のつながりや小中の交流が多くなり、中一ギャップが緩和されそう。

＜小学生と中学生の交流について＞
・中学生の生活面を見ていれば、スムーズに進級出来ると思う。
・他学年との交流が増え良い刺激になる。
・児童生徒の交流は、小中一貫教育の魅力のひとつである。
・幅広い年齢、たくさんの人に囲まれてこそ社会性が生まれ、勉学だけでない良い刺激を得ることができる。
・自主性が生まれ、問題があった際の解決の糸口も多岐にわたると思う。
・たくさんの人と関わりを持ってほしい。

＜一体型校舎、設置場所について＞
・１つの校舎にすることが理想だと思う。
・東国分中の校舎を使用すれば、無駄がない。
・小学生、中学生の区切りをつけるのであれば、校舎の構造を工夫すればよい。渡り廊下で区切る、第一校舎、第二校舎を建築するなど、敷地内で分散させてもよいのではないか。

＜行事について＞
・児童生徒が交流を持てるような授業や部活動、行事などがあれば良い。
・運動会や部活、イベントに力を入れてほしい。
・行事を合同でやれたら、人数も多く活気が増すと思う。顔見知りが顔馴染みになりより仲良くなれると思う。

＜教師の負担軽減や交流について＞
・移動が減り児童生徒や先生との連携がより取りやすくなる。
・教員の負担が減る。
・児童生徒の教育活動、教員同士の交流や情報交換がスムーズにできるようになる。

中学生の試験や受験などでの落ち着かない環境になってしまうのではないか心配。 ・爽風学園としての連携が強くなるほど他校からの生徒が進学時に疎外感を感じやすくなるのではないか。 ・中国分小学校から東国分中学校に進学したので、小中一貫のメリットを感じづらい。	**＜兄弟関係について＞** ・兄弟で同じ校舎に通学すれば安心に繋がる。 ・小中に兄弟がいる家庭は、学校への連絡等、保護者の負担が減る。 **＜通学や校舎間の移動について＞** ・同じ方向に登校することにより高学年の目もあり、低学年の安全性が向上しそう。 ・児童、生徒、教職員が移動する際の安全性が確保される。 **＜今後の進め方について＞** ・一貫教育を進めるのであれば同じ校舎が理想ではある。あまりに費用と時間がかかりすぎると出来上がった時にはまた別の時代の流れや影響が出てきそうなのでできることから模索検討してほしい。 ・稲越小を曽谷小に統一してから、三校の統一を模索していくのが良い。 ・二中が人気なのでそちらに生徒が流れてしまい、東国分中学校が廃れ、生徒の意欲や自信の向上、体験機会の欠如になってしまうことがすごく心配。 ・曽谷小と稲越小の生徒が一体となり中学時代も盛り上げていくような機運の醸成が小学校生活のうちから必要だと思う。目先の話だけではなく未来に向けとても大切な問題なので真剣に考え取り組んでほしい。

＜その他の意見（記述）＞

小学生	中学生
・小学生だけの集会がいい。 ・中学生はオンラインがいい。 ・別々の校舎が良いが他の学校と交流したい。 ・皆であつまる時だけ(集会など)一緒に取り組みを進める。	・別々で大丈夫だったのなら今のまま、1つの校舎にしてみて、別々の方がいいという意見が多く集まったのなら校舎を戻すのが一番いいと思う。 ・状況によって使い分ける。 ・オンライン集会は別になくても良いと思う。

教職員	保護者
・同一敷地なら、校舎は違ってもよい。 ・教職員の負担は大きくなるため、主体的に意欲を持って進むことが出来る職員やリーダーシップを取れる校長が必要不可欠だと思う。 ・「負担感」が先行しないような人的な優遇配置などもあると良い。	・現在の校舎が良いが老朽化等が気になる。 ・子どもたちの意見を尊重します。 ・校舎を1つにした場合の場所で答えが違ってくる。 ・予算、時期、建設期間等による。 ・小学校同士は一緒になってもいいと思う。 ・別々の校舎の場合は、小中一緒のグループを作り、分散してはどうか。

<まとめ>

「小３～中１」、「中学校教職員」は、「今のままで進めていくのが良い」と回答した割合がやや上回りました。「中学２・３年生」については、「今のままで進めていくのが良い」と回答した割合が７割でした。「小学校・中学校の保護者」は「３校が１つの校舎となって取り組みを進めていくのが良い」と回答した割合がやや上回りました。「小学校教職員」は「一つの校舎として進めていくのが良い」と回答した割合が約７割でした。

「一つの校舎で進めていくのが良い」と回答した理由・意見」

小学生・・・「人間関係の広がりへの期待」、「３校合同の部活動や行事の実施への期待」

中学生・・・「小中学生の交友関係の深まる」、「学園としての意識が高まる」

教職員・・・「小中の連携のしやすさ」「教育の質の向上」「３校の一体感が深まる」

保護者・・・「１つの校舎になることによる一体感」「教育の質の向上」、「授業や部活動の連携のしやすさ」、「中一ギャップの緩和」、「教師の負担軽減」、「小中の兄弟姉妹が一緒の校舎にいることの安心感」

「今のまま進めていくのが良い」と回答した理由・意見」

小学生・・・「学習・人間関係の不安」

中学生・・・「母校がなくなることへの不安」、「新型コロナウィルス感染症の拡大への不安」「1 校にまとまる必要性が感じられない」

教職員・・・「３校が１つになることで教職員及び児童生徒の負担が増す」

保護者・・・「校舎や校庭等の規模」「児童生徒数が増えること」「通学距離が延びることへの不安」「年齢に差があることへの不安」「他の小学校から進学する児童生徒への対応の不安」

基本計画では、令和６年度に東国分爽風学園の小中一貫教育の方向性を判断することとしています。

令和５年度についても、小中一貫教育の取り組みを進めることによる意識の変化を確認し、将来の学校の在り方の検討における参考とするため、調査をしてまいります。

別紙１

令和５年６月

東国分爽風学園　プロジェクト会議だより　⑯

１　日　　時　　令和５年４月２８日（金）　１５時００分～１６時１０分
２　会　　場　　市川市立東国分中学校　会議室
３　参 加 者　　・東国分中・曽谷小・稲越小の校長・教頭・教務主任
（１１名）　　・教育委員会（指導課・学校環境調整課）
４　内　　容　　（１）令和５年度グランドデザインについて
（２）今年度、実施する取り組みについて
（３）ふるさと探究科の取り組みについて
（４）専門部会について
（５）３校合同学校運営協議会について

５　会議の概要

（１）令和５年度「グランドデザイン」について

〇昨年度見直しを進めたグランドデザインの変更案の内容について確認しました。
＜旧グランドデザインからの変更点＞
１　グランドデザインのレイアウトを「縦」⇒**「横」**
２　「東国分爽風学園の学び」によりめざす将来像
・≪めざす子ども像≫「心身ともに健康」⇒**「心身ともに健康な子ども」**
・≪めざす教職員像≫「心身ともに健康」⇒**「心身ともに健康な教職員」**
３　「東国分爽風学園の学び」の４つの柱
・≪学校・地域交流連携活動≫
「教育の接続化　幼小中高・小小連携、交流」⇒**「教育の接続　幼小中高・小小の交流連携」**
「コミュニティ・スクールの推進」
⇒「コミュニティ・スクール　学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的推進」
〇変更したグランドデザインは、７月上旬に３校のホームページに掲載する予定です。

（２）今年度、実施する取り組みについて

〇昨年度実施した取り組みを基に、今年度、３校で実施する取り組みについて検討を行いました。
＜昨年度実施した主な取り組み＞
・小中合同職員研修会
・中学校の数学科の教員による小学校への乗入れ授業
・小小連携の挨拶運動
・小学生の部活動見学及び体験
・中学校授業見学
・いじめをなくすブルーリボン運動

【プロジェクト会議で出た意見等】
・今年度は小中連携で挨拶運動を実施できると良い。
・いじめをなくすブルーリボン運動は、１２月の人権週間に実施したい。
・部活動見学や中学校授業見学は、昨年同様に実施する方向で、時期については今後検討する。
・今年度、３校で実施する取り組みを検討するため、小中合同職員研修会や専門部会を早い時期に開催したほうが良い。

〇今回出た意見を基に、３校が連携して行う取り組みの具体的な内容について、今後、検討していくこととしました。
〇小中合同職員研修会を８月３０日（水）に開催することになりました。

〇今年度のふるさと探究科の取り組みの検討状況について、各校から説明しました。

・曽谷小学校　５月末か６月初めに企画書を検討する予定。今回は稲越小と合同で検討したい。

・稲越小学校　３年生は、「市川ふるさとたんけん隊」を立ち上げ、道の駅の見学を行った。５年生は６年生に相談やアドバイスを受けながら田植えの計画を進めている。まだ、どのように探究を進めていくか固まっていない部分があるが、やる気を見せている。

・東国分中学校　新１年生から「Inspire High」※を導入する。これまで取り組んできたキャリア教育などの既存の仕組みに関連させ、生徒の「探究」に重きを置き、ＳＤＧｓの１７の目標から自分で課題を見つけ、多様な物事や考え方を受け入れる子どもたちを育てることを目的に、３年間で学習を進めていくことを計画している。

〇６月上旬に教育委員会の職員を講師に招き、曽谷小学校と稲越小学校が合同で、ふるさと探究科の企画書の検討を行う予定です。

※Inspire High…世界中のアーティストや研究者、起業家などがガイドとなり、多様な価値観、仕事、社会課題など、さまざまなテーマに沿って話をする１０代向け映像教材。

（４）専門部会について

〇今年度の専門部会のメンバーや役割分担について確認しました。

〇「学びのユニバーサルデザイン」の作成について報告がありました。

・東国分中学校の特別支援教育コーディネーターが、特別支援教育部会を通して、東国分爽風学園の「学びのユニバーサルデザイン」を作成しました。

４つの柱を立て、以下のように３校で共通理解を図りました。

１「環境の工夫」…前面の黒板周りをすっきりさせる等、授業に集中して取り組む環境を整える。

２「授業の工夫」…１日の予定や提出物を黒板以外に掲示する等、学習習慣を身に付ける。

３「指導の工夫」…ノートの使い方のルールを決める等、児童生徒がわかる授業を実践する。

４「個人差への配慮」…少人数学習等、学習指導の充実を図る。

これらの取り組みにより、きめ細やかな指導の充実を図り、特別支援教育を推進していくことを確認しました。

（５）３校合同学校運営協議会について

〇３校合同学校運営協議会の開催時期や内容等について検討を行いました。

〇検討の結果、３校合同学校運営協議会は、曽谷小のオープンスクールに合わせて開催することになりました。

第１７回プロジェクト会議は、令和５年５月３０日（火）に開催しました。詳細は、次回のプロジェクト会議だよりでお知らせいたします。

お問い合わせ先（事務局）：市川市教育委員会　学校教育部　学校環境調整課
Tel：047-702-5355／Fax：047-383-9203

別紙２

学園教育目標

『笑顔をつなぐ 未来へつなぐ 東国分爽風学園の学び』

東国分爽風学園 グランドデザイン

東国分中学校・曽谷小学校・稲越小学校

「東国分爽風学園の学び」によりめざす将来像

《めざす子ども像》

★主体的に考え、学び、伸びる。
★心豊かで、幅広い年代と協調できる。
★ルールやマナーを守り、基本的な生活習慣を身につける。
★心身ともに健康な子ども。

《めざす教職員像》

★小中一貫教育の理解と研修に努める。
★学園全体のチームワークを大切にする。
★保護者・地域と積極的に連携・協働する。
★心身ともに健康な教職員。

《めざす学園像》

★系統性・連続性を重視した小中一貫教育の良さを、児童生徒・教職員・保護者・地域住民が実感できる学園。

生徒指導 教育相談

●子どもの9年間の成長を見据えた教育相談の充実
●多様性の尊重
●各分掌を組織化した機能的な連携
●基本的な生活習慣の確立

学校・地域 交流連携活動

●教育の接続
幼小中高・小小の交流連携
●コミュニティ・スクール
学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的推進

学力向上

●新しい教科「ふるさと探究科」の推進
●ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境及び学習規律の統一
●小中一貫型カリキュラム・マネジメントによる学力向上
●教科担任制、ICT活用による個別最適な学びの実現

特別支援教育の充実

●個に応じた支援を行うための特別支援教育の充実
●特別支援学級、須和田の丘支援学校等との心の交流

９年間でつなぐ小中一貫教育を実践